

令和 6 年度第 1 回浜田市保健医療福祉協議会 会議録

会 議 名	令和 6 年度 第 1 回浜田市保健医療福祉協議会
開 催 日 時	令和 6 年 7 月 2 日（火）18：30～20：00
開 催 場 所	浜田市役所 4 階 講堂 A B
会 議 の 担 当	健康福祉部 地域福祉課
議 題	1 各種計画の進捗状況等について 2 第 3 期子ども・子育て支援事業計画について
公開・非公開	公開（傍聴者 0 名）

【出席者】

委 員 (17 名)	笠田委員、中島委員、角委員、青木委員、佐々木良二委員、川神委員、栗栖委員、佐々木喜弘委員、山崎委員、中本委員、岡本委員、長谷川委員、宇野委員、丸田委員、岡本委員、三浦委員、富金原委員
事務局 (15 名)	久保健康福祉部長、河内地域福祉課長、小驛地域福祉係長、大下障がい福祉係長、棕木健康医療対策課長、大賀健康増進担当課長、河上地域医療担当課長、小松高齢者福祉係長、西川高齢者福祉係専門技術員、野上健康づくり係長、岩地健康づくり係専門技術員、紀健康づくり係専門技術員、龍河子ども・子育て支援課長、小林子育て世代包括支援担当課長、吉村子ども政策係長

1 会議成立報告

20 名中 17 名の出席により、委員の半数を満たす。

2 健康福祉部長挨拶

3 会長及び副会長の選出

委員の互選により、中島委員が会長に、佐々木喜弘委員が副会長にそれぞれ選出された。

4 【報告事項】各種計画の進捗状況等について

資料 No. 1～No. 7 について、資料により進捗状況を説明。

(1) 地域福祉計画（資料 No. 1）

委 員	大学生等による地域福祉活動の促進について、具体的な取組事例はあるか。
事務局	令和 5 年度に島根県立大学の学生と協働で、社会福祉協議会の在り方に関するアンケートや、集計結果の分析を行った。 過去にも、浜田市再犯防止推進計画の策定のためのアンケート調査・集計作業を協働で行っている。
委 員	中高年引きこもり支援事業について、令和 5 年度の相談件数等の実施状況が分かれば教えていただきたい。
事務局	令和 5 年度に浜田市が受けた相談件数は延べ 453 件、また受託事業者（浜田市社会福祉協議会）が受けた相談件数は延べ 91 件という状況である。 受託事業者においては、居場所づくりの支援や家族の交流支援、訪問活動など手厚い活動を行っている。
委 員	高齢者等の移動支援について、敬老乗車券交付事業を実施しているとのことだが、例えば弥栄地域には歯科医がおらず、診療を受けようと思うと弥栄地域から外に出る必要がある。そのような場合、この敬老福祉乗車券がどの程度医療を受けるために使えるものなのか、弥栄地域にお住いの委員に現状をお伺いしたい。 また、市の把握している情報も教えていただきたい。
事務局	現在浜田市では、各地区のまちづくり委員会で計画を立てて、相乗りタクシーを利用させていただいており、それに対して年間 80 万円を上限として市から補助を行っている。地域の人達で話し合って通院に利用していただくことはできるが、これは 1 人では利用することができない。 また、予約型乗合タクシーもあるがそれは運行ルートが決まっているため、必ずしも自分の行きたい医療機関がルートに含まれているとは限らない。 このような場合は、敬老福祉乗車券や路線バス等の地域公共交通を利用して通院していただいているという現状である。
委 員	弥栄地域では、住民同士の助け合いというか、地域の外に用事で出るときに、近所の人もついでに車に乗せて病院まで連れていくということをしている人もいる。相乗りタクシーについては、通院の問題を解決する手段のひとつであると思うので、今後、地区まちづくり推進委員会で提案したい。

(2) 障がい者計画、障がい福祉・障がい児福祉計画（資料 No. 2）

委 員	訪問系サービスの利用実績について、サービス提供事業者が人員不足で対応できないため、実績が減少しているという説明があったが、この問題に対する今後の対策等があれば教えてほしい。
事務局	訪問系サービスに限らず、障がい福祉サービスに携わる人員は全体的に不足している状況であり、国に対して人員確保や職員の処遇改善について継続的な要望を行っている。令和 6 年度は、障がい福祉サービス等の報酬改定が行われたところではあるが、これが人員不足を解消するために劇的な効果あるかは疑問である。 今後は、現在のサービス提供事業者が減少しないように、行政側と事業者側とで連携を深めていきたいと考える。

(3) 高齢者福祉計画（資料 No. 3）

委 員	認知症支援のためチームオレンジで活動をしているとご説明があったが、具体的にどのような活動をしているのか教えていただきたい。
事務局	チームオレンジは現在 2 チームあり、1 つは地区の民生児童委員で構成されている。このチームはケアマネージャーと協力しながら、介護保険サービスではカバーできない部分である、高齢者への声かけや見守り活動を行っている。 また、もう 1 つのチームについては、地域ケア会議に出席していただいている薬剤師で構成されており、本人や家族の相談を受けたりという「認知症カフェ」に近い役割を担っていただいている。
委 員	シルバー人材センターについて、地域で色々な仕事をお願いしており助かっているが、現在会員は何名ぐらいいるのか。また、シルバー人材センターにはこのまま活動を継続してほしい。
事務局	令和 5 年度末現在の会員数は約 420 名であり、会員数は徐々に減少している。シルバー人材センターでは会員数の確保に向けて、年齢や体力に応じた就業機会の情報提供を行っている。
委 員	先ほどチームオレンジは介護保険サービスでカバーできない部分の活動を行っているとのこと説明であったが、介護保険の地域支援事業の対象にもならないのか。
事務局	地域支援事業の対象にはなるため、これを活用して取り組んでいる。

(4) 健康増進計画（資料 No. 4）

委 員	「朝ごはんを毎日食べる人の増加（幼児期）」を目標に掲げているが、朝ごはんを毎日食べない幼児がいることに驚いている。なぜ朝ごはんを食べないのか、理由が分かれば教えていただきたい。
事務局	朝ごはんを食べない理由については、食欲がないことや時間がないためといった理由をよく聞いている。 夜、遅い時間まで起きているため、朝ご飯を準備しても食べられないという場合もある。

(5) 食育増進計画（資料 No. 5）

委 員	食品ロスの削減について、学校給食の食べ残しは減っていると思うが、調理する段階で栄養があって食べられる部分も捨てているといった場合もあると思う。食品ロスの考え方を、食べ残しだけではなく、調理の段階でも削減するというように考え方を変わっていただきたいと思う。
事務局	食品ロスの考え方については、国や県の指針に沿っているところであり、現在はその指針に基づく調査の結果をお示ししたところである。
委 員	国や県の指針に沿っているのは理解したが、浜田市として調理段階での食品ロスの観点も取り入れて考えてもらえれば、食品の生産者としてもやりがいがあると思うので、検討していただきたい。

(6) 自死対策総合計画（資料 No. 6）

質疑なし

(7) 子ども・子育て支援事業計画（資料 No. 7）

質疑なし

(8) その他

委 員	行政がこのような計画を策定し、また従来実施している事業をそのまま行くと、事務処理だけが多くなって結局職員が動いていないというのが今までの実態ではなかったかと思う。 そのような状態ではどれだけ良い計画を立てても実行できないと思うので、ちゃんと実行できる計画を立てていただくのが良いのではないかと思う。
事務局	福祉分野の各種計画においては新たな施策を盛り込むよう、国から指針が示されることも多い。ご意見のとおり、本来ならば新しいことに取組むには、古いことをスクラップしなければ、マンパワーや予算に限界がある。しかしながら、現在行っている施策で住民サービスに関する部分は、なかなか廃止や縮小しにくいということもある。住民サービスを縮小することがなるべくないよう、また、あまり職員の負担を増やさないように内容を精査して取組んでいきたいと考える。
委 員	不登校の生徒児童に対して、学校の健康診断はどのように対応しているのか。
事務局	不登校の生徒児童の健康診断については、どのように対応しているか教育委員会に確認し、次回委員会で報告する。
委 員	各計画の報告を聞いていると、市役所内の各課の連携や民間団体の連携の話があまり出てきてないように思う。それぞれが行っている取組をうまく組み合わせることで、仕事が効率的になり職員の方の働き方が楽になることもあると思う。 発想をいつもと異なる方向から見ること、新しい発見もあると思うので、我々も気づいたことや応援できることがあればお伝えしようと思う。 市の皆さんにおいても、このことをお持ち帰りいただき、今後の業務にあたりご検討いただきたい。

(9) 第 3 期・子ども子育て支援事業計画について（資料 No. 8）

質疑なし